

専攻医
の主張

医師への道と、今後

国家公務員共済組合連合会 呉共済病院 腎臓内科 岡本 まどか

腎臓内科専攻医1年目の岡本まどかと申します。現在は広島県呉市の呉共済病院で勤務させていただいております。

私は三重県出身で、両親は薬剤師であり、家系に医師はおりませんでした。そんな私が医師を目指した動機についてお話しさせていただきます。

私は小さい頃にアトピー性皮膚炎に罹患し、近医を受診してもなかなか良くなり、大阪の病院まで月1回通う日々を過ごしていました。状態はだんだん良くなり、「医者ってすごい！私もいつか先生みたいになりたい！」と子どもながらに思ったのが、思い返せば、初めて医師を志した動機だったと思います。

しかし、中学生・高校生と成長するにつれて、小学生低学年の頃に思っていた医師になりたいという動機は薄れ、あまり勉強をしない学生生活を送っていました。高校3年生になり進路について考えなくてはならない時期となっておりましたが、その当時は漠然と両親の仕事をしている背中を見て、同じ薬剤師を目指してみようと考えておりました。しかし、学生時代あまり勉強していなかった結果、当然受験に間に合わず、薬剤師を目指して浪人することとなりました。予備校に行くと医学部を目指している人が多く、気がつけば私の周りも医学部を目指して

浪人している友達ばかりとなりました。その友達たちと一緒に過ごす間に、小さい頃に思っていた「医者になりたい」という気持ちを思い出しました。ただ薬学部も受からない学力の私が、今から医学部を目指すとなると一体何年かかるのかと考えると怖くなりました。しかし、両親に相談すると「何年かかってもいいから頑張るだけ頑張ってみればいい」と背中を押してくれ、4年かけて医学部に合格することができました。浪人時代に培った忍耐力は自分の強みだと感じています。

そして大学時代に出会った方が広島県出身であったため、研修先は広島県を選び、就職先も広島県に決めました。初期研修医が始まった頃は外科志望でしたが、たくさんの診療科をローテーションしていくうちに、電解質異常などの内科的なことからシャント血管作成などの外科的なことまで幅広く行うことができる腎臓内科に魅力を感じ、腎臓内科を選択しました。現在腎臓内科医として働きはじめて数ヶ月経ちましたが、まだまだ慣れないことも多く、壁にぶつかる毎日ですが、暖かい人たちに囲まれながら多くのことを学び、日々精進しております。広島県の医療に少しでも貢献できるよう日々頑張っておりますので、よろしくお願いいたします。

広島県麻薬・覚醒剤・大麻乱用防止運動月間

10月・11月は「麻薬・覚醒剤・大麻乱用防止運動月間」です。
麻薬・覚醒剤・大麻等の乱用拡大を防止するための対策について
積極的なご協力をお願いします。

麻薬・覚醒剤等の薬物乱用の恐ろしさを県民一人ひとりが正しく認識して、薬物乱用のない安心安全な社会をみんなで築きましょう。

なお、覚醒剤等に関することでお困りの方は、最寄りの警察署、中国四国厚生局麻薬取締部、県立総合精神保健福祉センター（個別相談指導・家族教室・家族のつどい・本人向け回復プログラム）、保健所・支所又は県庁薬務課へご相談ください。

